



気軽に利用できる 図書館として

益 城町図書館は、ミナテラス（交流情報センター）の中核施設として、いつでも、どこでも、だれでも気軽に利用できる快適な図書館を目指しています。「快適な図書館」とは、過ごしやすいたくわい気をかもし出し、日常の中で気軽に立ち寄れて時間を過ごすことができる図書館を意味します。

図書館には、図書をはじめとする膨大な情報が集まっており、皆さんは、その中から必要な情報を無料で得ることができます。また、読書案内や調べものなどをお手伝いする「レファレンス」や読みたい本を予約・取り寄せる「リクエスト」などのサービスなどもあります。

平成21年の開館時には6万8,736冊だった蔵書数は、22年度末には8万1,166冊（新聞・雑誌を除く）に増えました。この蔵書数には、一般書や児童書のほか郷土資料や参考資料など、町の発展に欠かすことのできない情報も含まれています。

意外と知らない 図書館の魅力

図書館の魅力は、充実した設備と使いやすさですが、意

外と知られていません。

館内は完全バリアフリーで、本棚と本棚の間の通路は、車いすの人でも容易に通れる広さが確保されています。また、「たみコーナー」や「はだしコーナー」など、リラックステ本に親しめるスペースが用意されています。

本の配置は、視覚に訴えるためにカテゴリーごとに大きな見出しを付け、探している本がすぐに見つかるように工夫されています。

図書館で変わる 余暇の過ごし方

皆 さんは、余暇をどのように過ごしていますか。

館内は、皆さんが貴重な時間を快適に過ごすための機能が充実しています。

図書館は単に本を借りる場所と思われがちですが、それは図書館の機能の一部に過ぎません。毎週2回、親子を対象としたおはなし会や4か月健診の親子を対象とした「ブックスタート事業」、役割を終えた本を無料提供する「リユースブックフェア」、毎年秋に行われる「図書館まつり」など、さまざまなイベントが行われています。

夏休み期間中、会議室の利用がない場合は、その会議室を自

町の図書館が誕生して2年が経ちました。その間、蔵書数・利用者ともに着実に増え、たくさんの情報を得ることができるようになりました。現代は、さまざまなメディアが発達し簡単にあらゆる情報を得られるような時代。それでも本は、今でもみんなに愛され、読まれ続けています。今回は、図書館の魅力にスポットをあてて見たいと思います。

特集 ここで見つける新たな発見

さあ、図書館へ行こう